# （施策評価表28）

【施策番号Ⅱ－5－①－2】

| 取組みの方向性 | アジアとつながる | 戦　略 | 【戦略5】アクション・アジア<br>～成長するアジアの市場に打って出ます～<br>①アジアに打って出る | 主な施策 | ◆ポートセールスを新体制で展開する<br>～熊本港・八代港を活用したポートセールスの強化～ |
|---|---|---|---|---|---|

| 1 取組内容 | 2 主な事業（上段：H25事業 下段：H24事業） | 担当課 | H25予算（千円）<br>H24決算（千円） | 3 平成24年度の主な成果 | 4 平成25年度の推進方針・推進状況 | 5 施策を推進する上での課題 | 6 今後の方向性 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ・ 本県の物流を促進し産業振興を図るため、推進体制を整備し、八代港や熊本港におけるアジアとの新たな航路開拓など、ポートセールスを積極的に展開します。 | 国際コンテナ利用拡大助成事業 | 企業立地課 | 81,285<br>53,180 | ・熊本港、八代港のコンテナ取扱数量（H24暦年、単位：TEU、空コンテナを含む）が熊本港：5,033、八代港：11,367の計16,400となり、前年比16%増となった。<br><br>・熊本都市圏の物流機能の強化に向け整備を進めてきた熊本港のガントリークレーンについて、H24年10月に供用を開始し、コンテナ荷役の安定性が向上した。<br><br>・H24年12月から熊本港の週２便体制が実現した。<br><br>・荷主企業による具体的な利用検討が進み、複数の企業で実際の新規利用及び利用拡大があった。さらに、具体的には、継続利用企業の利用増、大手企業等によるH25年度からの利用開始にもつながった。<br><br>・香港及びシンガポールにおける輸送コストのための物流実証並びに事業者による販売実証を実施した（物流実証：延べ64品目、販売実証：延べ72品目、販売実証参加事業者：延べ38業者）。<br><br>・韓国、台湾で市場調査、商談交渉を行い、韓国にヒノキ丸太、台湾へヒノキ板材をテスト輸出した。 | ・H24年度にもまして更なる取扱量の増加を図るため、コンテナ助成金等をインセンティブに、より多くの荷主企業への働きかけや輸出企業と輸入企業のマッチングの場の設定、国内や海外でのポートセミナーの開催などを行う。また、港湾機能を向上させるため、物流・倉庫企業の誘致などに取り組む。<br><br>・木材のテスト輸出を継続し、輸出先がどのような製品を求めているかなどの詳細を把握するとともに、価格への対応など様々な課題を「くまもと県産木材輸出促進協議会」で検討し、事業体に支援を行うことで、県産木材の東アジアに向けた販路拡大を図る。<br><br>・熊本港においては、物流機能の強化に向けた航路や防波堤の整備を促進するとともに、港湾機能を保持するために必要な整備を着実に進める。<br><br>・八代港においては、地元の熱心な働き掛け、県・市による船社誘致の助成措置等の結果、韓国航路、中国航路が加わり週５便となった。 | ・週２便化など、増強された航路の維持・拡充を図るため、戦略的ポートセールスの効果を早期に発現させていくことが必要である。<br><br>・港の一層の利用の増加に結びつけるため、港湾への物流施設の誘致など、恒久的な利用に結びつく多角的な手法を一括して推進する必要がある。<br><br>・県産木材の輸出について、八代港や熊本港を活用したアジアへのポートセールスを展開・強化するため、海外の需要や輸出に関する情報の収集及び集積を図り、テスト輸出を通して輸出量の確保につなげていく必要がある。<br><br>・熊本都市圏の物流機能の強化には、海の玄関口である熊本港の港湾機能の保持が不可欠であるため、計画的な維持・管理が必要である。 | ・H27年度に両港計で30,000TEUを達成することを目標とし、一層の利用拡大に向け、地元市や港湾関係企業等との積極的な協力体制を築きながら、目標の達成を目指していく。<br><br>・八代港について、水深14m岸壁及び関連施設の整備を促進し、大型船舶による効率的かつ効果的な物流体制を確立することで物流機能の強化を図る。<br><br>・熊本都市圏の物流機能の強化に向け、熊本港の既存施設を適切に維持・管理していくとともに、取扱貨物の動向や利用状況を適切に見極めながら必要な整備についての検討を行う。 |
| | 戦略的ポートセールス推進事業 | 企業立地課 | 50,041<br>7,077 | | | | |
| | くまもと県産木材輸出促進事業 | 林業振興課 | 6,464<br>5,455 | | | | |
| | 物流拠点機能向上事業 | 港湾課 | －<br>539,000 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | 主な施策のまとめ | | ●熊本港、八代港のコンテナ取扱数量が前年比16%増加し（H24:両港計16,400TEU、空コンテナを含む）、物流が促進。<br><br>●熊本港のガントリークレーンがH24年10月に供用開始し、コンテナ荷役の安定性が向上。<br><br>●H24年12月から熊本港の週２便体制が実現し、推進体制の整備が進展。 | ●取扱量の増加のため、コンテナ助成金等をインセンティブにより多くの荷主企業への働きかけ等を実施。<br><br>●港湾機能の向上のため物流・倉庫企業の誘致等を推進。<br><br>●「くまもと県産木材輸出促進協議会」での課題の検討により、県産木材の東アジアへの販路拡大を促進。<br><br>●航路や防波堤等必要な整備を実施することにより、熊本港の物流機能を強化。<br><br>●八代港の韓国及び中国航路を加えた週５便化。 | ●航路の維持・拡充に向けた戦略的ポートセールス効果の早期発現。<br><br>●県産木材のポートセールス強化のための海外需要や輸出関連情報の収集等の戦略的推進。 | ●両港計で30,000TEUを目指し、地元市や港湾関係企業等との積極的な協力体制を構築。<br><br>●八代港の水深14m岸壁及び関連施設を整備促進し、物流機能を強化。<br><br>●熊本港施設の整備や適切な維持・管理で熊本都市圏の物流機能を強化。 |